

ひきこもりを抱える保護者の方へ

4/25

ある朝

突然

電池が切れた僕の話

絵にかいたようなひきこもり生活だった10年間

最初の1年、両親は僕に「おはよう」「おやすみ」と話しかけていました。僕は返事ができませんでした。

ある時それがぱたりと途絶え、不摂生な生活で体はボロボロに。でも助けを求めることができる人が誰もいなくなってしまうと感じました。

10年間、誰とも口をきかず、1年半の悪徳業者による軟禁生活を経て再生した僕が「今、生きている」お話です。

- 僕がひきこもりになった頃の話
- どんどん開く同年代との差、焦り
- ひきこもりの間、言えなかったこと
- 突然の軟禁生活からの脱出と再生
- 僕が必要と思う支援について
- もしご家族にいるならば…

当人に合ったさまざまなアプローチについてお話しします

「かつて電池が切れた僕」のほか、社会福祉士・介護支援専門員の三枝公一さん（一般社団法人いつでもどうぞ代表）と社会福祉士・公認心理師の酒井かな子さんからもお話いただきます。

質疑応答時間をたくさん取ります

事前に質問を受け付けます。申込時に一緒にお伝えください。当日も質問できる時間を取ります。

【申込み・お問合せ・ご質問】

主催：restart C's

☎：090-6175-9707（つゆき）

✉：restart.companion@gmail.com



4月25日(日)14時00分～15時30分
場所：ラディアンミーティングルーム2

申込制